

ここがポイント！授業づくり

今回のテーマ：「授業における教師の役割とは」

授業における教師の役割は「教えること」だけではありません。児童生徒の学びを深めるためには、教授だけではなく、児童生徒の学びをコーディネートすることも重要です。

教師の役割①「引き出す」

授業で学ぶことについて、児童生徒は全く何も知らない前提で授業を始めたり、進めたりしようとしていませんか。

児童生徒はこれまでの学びや生活経験の中でいろいろな知識を得ています。そういった既知っていることを引き出しながら授業を進めることで、児童生徒にとって学びが自分事となり、主体的な学びにつながりやすくなると考えられます。また、知識と知識が関連付けられることで、学びの定着にもつながりやすくなります。

児童生徒のもっている知識や考えを引き出すのは教師の役割です。教師が説明しようとしすぎていないか、考えを引き出せているか、自分の授業を録画して確認してみてもいいですね。

教師の役割②「つなぐ」「整理する」

児童生徒から出された考えに対して、同じ意見がないか聞いたり、その意見についてどう思うか聞いたりされていると思います。それが「つなぐ」ということで、考えを共有し学びを深めるために必要な教師の役割です。

小学校で、児童が意見を言った後に「どうですか」と聞き、みんなが「同じです」と答える場面を見かけることがあります。同じでも言い方が違う、考えは同じだけれども理由は違う、という場合もあります。形式的な「同じです」で流さず、時には「もう1回説明してみても」と立ち止まらせてみることも必要です。

出てきた様々な考えを分類したり、関連付けたりしながら、児童生徒が考えを深められるようにすることも教師の役割です。板書で整理する、気づきを促すような発問をするなど、工夫してみましょう。

京都府丹後教育局
学校教育担当
令和3年1月発行
授業力UP研修8
～最終号～

この資料は、教職経験1～6年目（ステージ1）の先生方を主な対象として作成しています。他のステージの先生方にとっても、御自身の日々の授業実践を振り返っていただくきっかけとなれば幸いです。

教師の役割③「まとめる」

授業でいろいろな意見は出たけれども、結局今日の授業で児童生徒は何を学んだのかが分からないまま終わってしまったということはありませんか。教師がこの活動をとおしてどんな力を付けたのかが明確でないときに、「活動あって学びなし」という状況になりがちです。

授業の終わりに学んだこと、分かったことを明確にするというのは教師の大事な役割の一つです。児童生徒が自分の言葉でまとめるということもできますが、ねらいに対してのまとめとなるよう助言する必要があります。

「まとめ」と「振り返り」は別物であることにも留意が必要です。「振り返り」は、児童生徒が学んだことや学び方を振り返って、自分の学びを整理したり、次の学びへの意欲を高めたりするためにします。「まとめ」と「振り返り」はどちらも必要です。

☆授業力UP研修の終わりにあたって☆

全8回にわたって授業力を高めるための視点や具体的な方法を紹介してきましたが、今回が最終号となります。

先生方に忘れないでいただきたいことは「児童生徒のために、授業力を高める必要がある」ということです。授業改善の目的は児童生徒に学力を身に付けさせることであり、授業改善をすることそのものが目的ではありません。

目の前の児童生徒にとってよりよい指導の在り方を追求し続けるために、先生方が今後も学び続けられることを願っています。